

令和 6 年度第 2 回 釧路町ゼロカーボン推進協議会 会議録

1. 開催日	令和 7 年 2 月 2 1 日（水） 1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 2 0
2. 場所	釧路町役場 2 階 庁議室
3. 出席者	委員 1 0 名中 7 名出席、過半数により会議は成立 A 会長、B 副会長、C 委員、E 委員、H 委員、I 委員、J 委員
4. 欠席者	D 委員、F 委員、G 委員
5. 事務局	釧路町環境生活課 大中課長、伊東係長、永井主事
6. 配布資料	資料 1-1 令和 3 年度温室効果ガス排出量について 資料 1-2 自治体排出量カルテ① CO2 排出量の現状把握 資料 2-1 区域施策編 施策実施状況表 資料 2-2 報告書 参考 1 国・道・道内市町村との連携
7. 議事概要	1 町作成動画視聴 ⇒町が作成した研修用動画（10 分）を視聴 2 議事 報告第 1 号 令和 3 年度温室効果ガス排出量について 報告第 2 号 令和 6 年度事業の中間報告について ⇒事務局より資料 1～2 及び参考 1 に基づき一括して説明。 3 その他 ⇒事務局より、「再エネ施設を活用した地域経済循環を生み出す手法を検討しつつ、釧路町にとっての『再エネ導入と環境保全の最適解』を模索すること」を目的に、3 月 1 8 日（火）に実施する「釧路町ゼロカーボンシティ未来デザイン会議」について説明。

8. 内容

■報告第1号について

E委員

- ・家庭部門の自動車がなぜ運輸部門として計上されているのか。
→ 国際的な統計の数値で共通で計上されている。

B副会長

- ・車の種類はカウントされたうえで運輸部門として計上されているのか。
→ あくまで保有台数で計上している。
- ・保有台数のみでの計上ということは、現在、釧路町では軽自動車の割合が多いという状況にあるが、これが運輸部門の数値に計上されていないということ。
- ・軽自動車の排出量は少ないため、軽自動車の割合が多い場合、それを反映させる等ある程度地域性を入れられるようなコメントが必要。
- ・今後冬の室内温度を高くしすぎだと批判される可能性もある。北海道の家はある程度脱炭素的にも進んでいるのに、ミスリードが起きるかもしれない。

I委員

- ・釧路町の施策推進には環境省の自治体排出量カルテを使用しているという認識でよいか。
→ 認識のとおり。現状の制度では、独自に計算した排出量等をオフィシャルに出せるものとなっていないため、自分たちの町が行った施策等は数値に反映させられていない。
- ・ピカレンジャーは一人ひとりがごみを削減しているため、それを数値化したら面白そうだと感じた。ピカレンジャーの増員も望めるかもしれない。
→ 数値化した情報を内部で把握しておくことはできる。それらを区域施策編等の数値に反映できればより現実に即したものとなるが、現状難しい。

B副会長

- ・釧路町からこういう実態があると声を上げていけば、他自治体も賛同して大きな声になると思う。

A会長

- ・先ほど話にも挙がっていたが、本州等では県境を車で超えていけるため。運輸部門がデータとして一番怪しい。その年の結果を一喜一憂するのではなく、状況を把握しておくというのは大切なこと。
- ・動態分析も難しい。景気の上げ下げ等いろんな要素が関わる。増減の理由を説明できればいいが、外的な要素もあるので、実態がわからない。
- ・ゼロカーボンを目指すということは、使うエネルギーをゼロにするのではなく、生活の質を落とさず、再エネを使う等を行うこと。最後にはそれらの数値を反映させていたい。

■報告第2号について

I委員

- ・ 釧路信用金庫のATM側にフードドライブ用収集箱を設置すると、収集数がとても増加した。
- ・ ハポートとのコラボ事業について（くしろみんなの環境展）、情報としてはハポートのインスタグラムで知っていた。しかし、それ以外の手法での広報を見かけなかった。
 - ホームページや広報誌での周知を実施していた。
- ・ 今回のイベントの対象は子育て世帯ということで、その世代はインスタ等SNSを用いて情報を収集しているため、広報の手法にインスタ等を活用した方がいい
 - 伝えたい対象への周知方法は今後考えていく。

C委員

- ・ 高齢者向け施策の実施はしたのか。
 - 令和5年度に実施しており、今年度はマイアース大会において、こどもから高齢者へも波及するよう脱炭素に絡めたぬりえ等でアプローチを図っていた。

I委員

- ・ くしろみんなの環境展等の場で、ピカレンジャーの周知をしたらどうか。令和4年秋にチラシを作成したため、それを活用してほしい。事例紹介をした方がよいと思う。
 - 環境生活課はピカレンジャーも担当しているので、実施できる。

B副会長

- ・ 釧路町デコ活補助金において、次年度はV2Hを対象としているのか。
 - 道補助を利用しており、道が対象としていないため、対象としていない。要望はしている。

A会長

- ・ 補助金額だけでなく、売り上げの貢献度も数値化すると今後進めやすくなるかもしれない。
- ・ 町は再エネを進めているため、再エネの経済効果も目に見える形で出せるとよいと思う。

I委員

- ・ 釧路町の他自治体等への事例紹介については、どこかで確認することができるのか。
 - 道や各振興局等のホームページで確認ができると思う。

H委員

- ・ 釧路町の森林吸収量を考えると、ゼロカーボンシティ達成にかなり寄与すると思うがいかがか。
 - 現在、吸収量を考慮した数値で町の計画を作成しているところだが、今後の取組次第。
- ・ 事業者が再エネを提供している側と考えている。余っている土地をもっと活用してよいのでは。
 - （鈴木副会長）大企業の収益にしかないのに、再エネ賦課金によって町民へ負担がかかる。地域のメリットが必要。

以上